

取組の背景・目的

北海道におけるエゾシカによる農林業被害金額は令和2年度時点で4,068百万円にも上っています。宗谷森林管理署が所在する稚内市でもエゾシカによる様々な被害が多く見られます。野生鳥獣被害対策として当署では罠いわなによる捕獲や誘引捕獲に取り組んできましたが、市街地近辺では銃器による捕獲が安全上難しい場合があります。そこで銃器に頼らない捕獲方法として道内の森林管理署では初となる、職員によるくくりわなでのエゾシカ捕獲を実施しましたのでその成果について発表します。

取組の概要

- 時期：令和3年1月19日から2月10日
- 捕獲場所：稚内市野寒布国有林76林班
- 捕獲方法：約1ヶ月間の餌による誘引、IoT自動撮影カメラによる現地の状況確認、くくりわなの設置と見回り。捕獲後の止め刺し・処理は請負契約により実施。



取組の結果

捕獲結果は下表のとおりです。計23頭の捕獲に至り、捕獲効率（捕獲頭数÷わな総設置数）は7.67%に達しました。過去に同地区で実施されたくくりわなでの捕獲事業による捕獲効率約5%を上回る結果となりました。今回の結果に至った要因の1つとして餌による誘引が上手くいったことが挙げられます。下図は誘引期間中のエゾシカの出現頻度を自動撮影カメラを活用しグラフにしたものであり、給餌により多くのエゾシカが誘引されていることが分かります。

表 捕獲結果

日数（日）	12	
わな総設置数 （わな台数×日）	300	
捕獲頭数（頭）	オス	6
	メス	17
	計	23
捕獲効率（%）	7.67	

撮影頭数

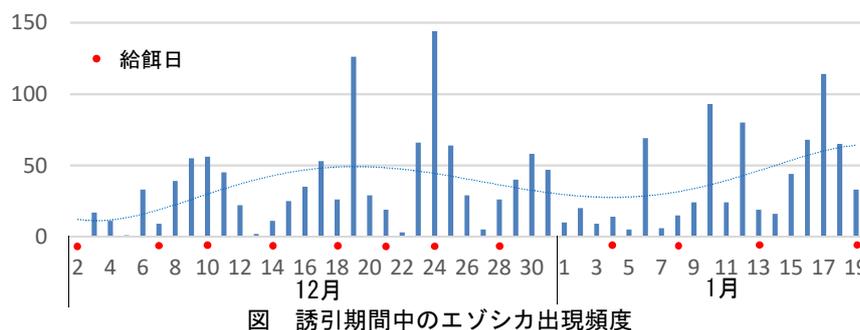


図 誘引期間中のエゾシカ出現頻度

今後の展開

取組を実施して感じた問題点については課題と改善策を整理し解消に向け今後も取り組んでいきます。捕獲事業を通して培った知識やノウハウは地方自治体等を交えた講習会やワナの貸し出しを通じて国有林から発信していきたいと考えています。

問題点

- ・給餌、見回りの労力
- ・個体処理経費
- ・捕獲個体の有効活用が困難
- ・動物福祉の観点

課題

- ・労力の軽減
- ・経費が掛かり増し
- ・捕獲個体の有効活用
- ・苦痛の軽減

改善策

- ・IoTカメラ活用による労力軽減、速やかな処理の実施
- ・給餌回数の軽減
- ・安全対策を講じた上で、職員の止刺の検討
- ・有効活用の検討